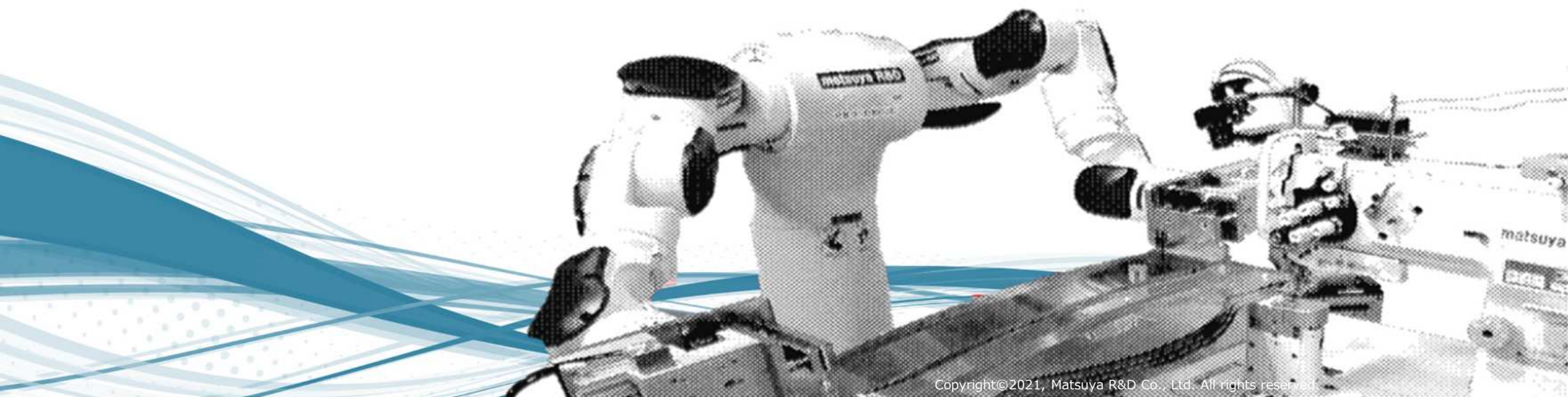


株式会社松屋アールアンドディ（証券コード：7317）

2022年3月期第2四半期 決算説明会資料

（2021年11月）



1.2022年3月期第2四半期実績

2. 今後の事業計画

2022年3月期第2四半期実績：サマリー

- ・ベトナムにおける新型コロナ対策規制の影響により、稼働率が減少したことが影響。
- ・10月中旬より規制が緩和され、新型コロナワクチン接種者は移動可能となった。
なお、当社**ベトナム子会社の従業員は全員接種済み**。
- ・受注状況としては顧客の需要は大幅に増加しており、今後の挽回生産に向けて**ベトナム、ミャンマーはすでにフル生産で稼働**。

	2021.3 2Q実績 (百万円)	2022.3 2Q実績 (百万円)	前期比
売上高	2,860	2,446	85.5%
売上総利益	650	523	80.6%
売上総利益率	22.7%	21.4%	△1.3
営業利益	313	89	28.4%
経常利益	280	95	34.1%
税金等調整前 当期純利益	280	21	7.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	244	19	7.8%
1株当たり四半期純利益（円）	47.37	3.64	7.7%

※収益認識会計基準を遡及適用

※株式分割後

2022年3月期第2四半期実績：セグメント別売上高&利益

- ・縫製自動機事業については前年同期とほぼ同じ水準であるものの、ルーマニアなど**欧州向けの出荷が増加**。
- ・縫製品事業においては、前年度第2四半期におけるアイソレーションガウンの売上（577百万円）を除くと既存事業（血圧計腕帯、カーシート、エアバッグ）では**増収**。しかし、ベトナムの新型コロナ対策規制により稼働率低下の影響及び規制下での納期対応のための残業代、エア便による運賃などが重しとなり、減益となる。

	2021.3 2Q実績 (百万円)	2022.3 2Q実績 (百万円)	前期比
売上高	2,860	2,446	85.5%
縫製自動機事業	237	220	92.9%
縫製品事業	2,641	2,295	86.9%
調整額	△18	△70	—
セグメント利益	313	89	28.4%
縫製自動機事業	16	△50	—
縫製品事業	412	347	84.3%
本社費&調整額	△115	△207	—

2021年実績：連結貸借対照表



Think sewing Think future

	2021.3 実績 (百万円)	2021.9 実績 (百万円)
現金及び預金	1,322	1,062
売上債権等	2,003	966
棚卸資産	1,840	2,651
有形無形固定資産	784	794
その他	253	266
資産合計	6,204	5,742
仕入債務	1,055	504
借入金（長期含む）	841	908
リース債務（長期含む）	418	440
その他	1,088	973
負債合計	3,404	2,827
純資産	2,800	2,914
負債純資産合計	6,204	5,742

・流動比率（流動資産÷流動負債×100）は181.9%→204.6%に改善。
 ・今後の生産に向けて棚卸資産（主に原材料）が増加している。

※収益認識会計基準を遡及適用

連結キャッシュ・フロー計算書



Think sewing Think future

	2020.9 実績 (百万円)	2021.9 実績 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	63	△287
投資活動によるキャッシュ・フロー	△36	△44
財務活動によるキャッシュ・フロー	320	70
現金及び現金同等物の換算差額	△4	2
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	343	△258

営業活動によるキャッシュ・フロー
ベトナムにおける今後の生産に向けての在庫増加

投資活動によるキャッシュ・フロー
当社本社改装工事及びベトナム子会社における新規エアバッグ製造用の設備投資による増加

財務活動によるキャッシュ・フロー
前年度は上場による新規株式発行による収入で291百万円の増収となった反動で減少

	2020.9 実績 (百万円)	2021.9 実績 (百万円)
減価償却費	106	111
設備投資	△33	△38

2021年度（2022年3月期）業績予想



Think sewing Think future

- 2021年度の業績予想は下記の通りとなります。
ベトナムにおける新型コロナ対策規制の影響を受けましたが、現在、ベトナム子会社においては従業員全員がワクチン接種を終えており、10月15日より従業員の移動制限も解除されたことから、全員が工場に出勤できている状況であり、**最悪の状況は既に脱しております。受注状況としては継続して顧客からの需要が大幅に増加しており、挽回生産に向けてミャンマーも含め、すでにフル操業体制を敷いております。**
現時点におきましては、2021年5月14日に公表いたしました2022年3月期の連結業績予想の変更はせず、今後の挽回生産の影響も鑑みながら精査しており、開示すべき事項が発生した場合には速やかにお知らせいたします。

	2022.3 公表ベース予想 (百万円)	2021.9 実績 (百万円)
売上高	7,186	2,446
売上総利益	1,620	523
売上総利益率	22.5%	21.4%
営業利益	724	89
経常利益	707	95
親会社株主に帰属する当期純利益	536	19

1. 2022年3月期第2四半期実績

2. 今後の事業計画

成長戦略

縫製自動機事業および縫製品事業の拡大

AI縫製ロボットを駆使した自動化ラインの構築を機に
縫製自動機事業、縫製品事業それぞれの受注を拡大

新たな業界への拡大

Medical Healthcare

医療用装置の開発

リハビリ用ロボット事業

最先端ウェアラブル機器

Anti Virus分野(防護服、ガウン)の縫製自動機及び縫製品

Safety System

3D画像処理付き
Sewing Robot

省力化ラインの推進

ドローン用エアバッグ



新規事業及び成長戦略

1. 人工心臓弁の縫合装置に引き続き、人口血管の製造装置等の開発
2. EGZO T e c h のリハビリロボットの販売を今期後半より開始予定。
3. リハビリ用ロボットの開発も今後取り組んでまいります。
4. 最先端ウェアラブル機器については福井県内企業と提携しながら、心拍数、体温測定等のセンサー及びD Xシステムの開発に着手し始めました。
5. 3 D縫製システムについてもすでに着手しています。来季早々にプロトタイプを制作する予定です。
6. MICにてエアバッグ用ラインの生産管理システムの開発を行い、来期発売を目指し、一部社内に導入して、検証しております。

当社を取り巻く業界の変化予想及び今後の取組

自動機事業（ソーイングオートメーション）

1) あらゆる分野で産業用ロボット需要が増大

（変化予想）

人手不足や自国内生産対応のための自動化生産対応の需要がコロナ禍でさらに加速が見込まれます。

（今後の取組）

A I ソーイングロボットや画像検査装置など次世代自動機の開発・製造・販売及び関連メーカーと業務提携

食品業界など異業種からも依頼が増加（2021年2月～）

2) ロボットSI（ロボット・システムインテグレーター）需要の増加

（変化予想）

生産現場へのロボット導入を設計する専門職の需要が急増すると見込まれます。

（今後の取組）

ベトナムM I Cの技術者育成

ドライバー席用エアバッグの自動機（初号機）を開発。（2021年7月より発売開始）

当社を取り巻く業界の変化予想及び今後の取組

自動機事業（ソーイングオートメーション）

3) メディカルヘルスケア分野の拡大 (変化予想)

新型コロナウイルスだけでなく、今後の感染症対策も含め日本製の医療用製品の自動化需要も拡大していく見込み。
(今後の取組)

メディカル部門及び防護服等の製造、自動機の開発・製造・販売

(New) メディカル部門で前田工織(株)との資本業務提携を実施 (2021年5月～)

4) コロナ後を見据えた設備投資回復の兆候 (変化予想)

メキシコとアメリカ間の貿易摩擦により一時的に減退していたメキシコ市場が、貿易摩擦の緩和により、メキシコでの生産設備商談が急増しており、需要拡大が見込まれる。

また、コロナ禍において設備投資需要が減退していた、コロナ後を見据えたヨーロッパ企業においても設備投資回復の兆しが見込まれる。

(今後の取組)

(New) 販売促進の強化、人材の多様化（外国人採用を拡大中）により営業力強化 (2021年4月～)

(New) ポーランドなど東ヨーロッパへの進出 (2021年8月～)

当社を取り巻く業界の変化予想及び今後の取組

縫製品事業（ソーイングプロダクト）

1) 国によるサプライチェーンの見直し (変化予想)

ローコスト生産品については賃金高騰が激しい中国やタイでの生産からベトナム生産への移管が増加。

(今後の取組)

ベトナムでの受託先の拡大、**(New) すでにカーシート、エアバッグで新規事業開始**

2) 大きな業界再編、大手企業のファブレス化 (変化予想)

コロナ禍で当社を取り巻く業界においても大きな事業変化が起きております。

変化の激しい環境にある中、需要の大きな変化に対応するため、ファブレス化が進んでおります。

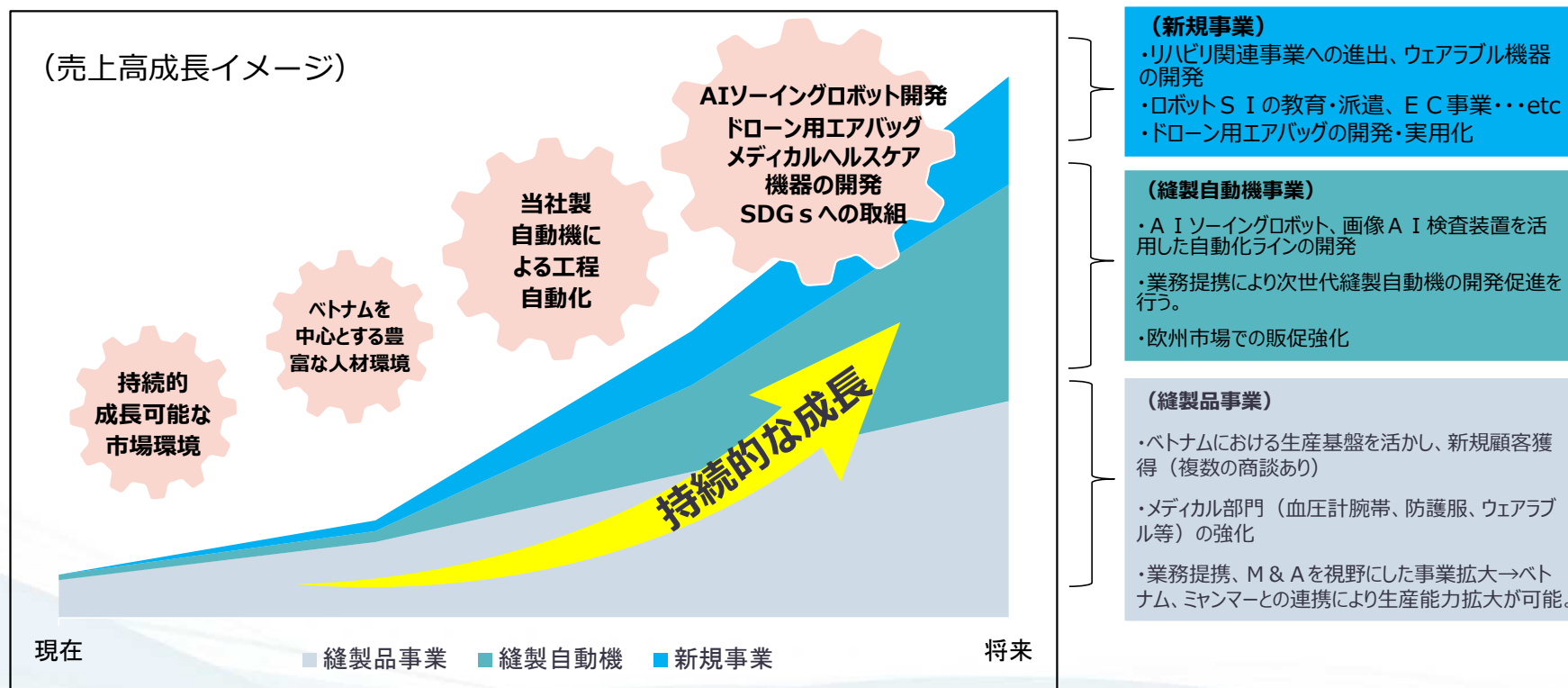
(今後の取組)

カーシート及びエアバッグ領域にて積極的なM&A, 業務提携の活用

弊社製レーザー裁断機を使用し、裁断に特化した事業を展開

成長戦略 成長イメージ

安定収入を生み出す縫製品事業を基盤に次世代縫製自動機の開発及び新規事業を中心に経営資源を投入し、持続的な成長を目指します。



成長戦略

イノベーションセンターを活用した研究開発の強化

- ・ベトナムのイノベーションセンターと日本本社と連携し、ロボット主体の自動生産ライン開発を更に強化
- ・イノベーションセンターにて優秀なロボットSIを多数育成
- ・ロボットメーカーとの業務提携も視野に入れながら、次世代縫製自動機の開発を促進

・日本とベトナムが連携してAIを開発し、優秀な人材を育成し、派遣も視野に入れていく



M I Cにおける主な開発テーマ

AIソーイングロボット

- ・双腕ロボットと画像処理システムを導入した3D縫製装置の開発
- ・関連特許を日本で取得済み、アメリカにおいては査定取得、欧州、中国にて申請中

画像AI検査システム

- ・エアバッグやカーシートの品質検査に使用することを目的として開発中

自社工場の生産ライン自動化

- ・ベトナム工場の生産ラインの自動化を進め、モデル生産ラインを構築中。将来的に新規事業として展開。

生産管理システムの開発

- ・これまでの生産ノウハウをもとに、誰が、いつ、どこで作業したかを詳細にトレース可能な独自の生産管理システムを開発し、早期事業化を目指す。

ドライバー席用エアバッグ縫製自動機 ...etc

- ・独自開発した画像認識カメラを搭載したAIロボットを7月より販売開始



本資料の取扱について

本資料には、将来の見通しに関する見通しや、事業戦略が含まれておりますが、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成されたものであり、リスクや不確実性が含まれており、実際の業績等が、これらの見通しや予測とは異なる結果となる可能性があります。

それらのリスクや不確実性には、一般的な業界、ならびに市場状況、金利、為替変動等の国内外の経済状況が含まれます。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等については当社は何ら検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。